

255th ACS National Meeting & Exposition 事後報告書

2018年4月9日

広域科学専攻 生命環境科学系 博士 3年 吉岡純矢

はじめに

私は、2018年3月18日から22日にかけて「修士・博士課程海外渡航助成」の支援を受け、アメリカのニューオリンズで行われた 255th ACS National Meeting & Exposition に参加しました。本学会は American Chemical Society (ACS) が組織し年 2 回開催され、各回 11,000~13,000 人の化学者が参加し 7,000 以上の発表が行われます。プログラムは 33 のテクニカルディビジョンにて構成されています。

概要

会場規模は、今まで参加したどの学会よりも大きく、発表内容に寄っては徒歩で 15 分以上離れた会場が設定されている場合もありました。私は、「Analytical Chemistry」の分野でポスター発表を行いました。発表内容は、1. 再生医療への応用が期待される間葉系幹細胞に物理的刺激を加えるデバイスの開発と影響の調査、2. 同デバイスを用いた間葉系幹細胞の分離・濃縮技術の開発という内容でした。大規模の学会であるからこそ沢山の研究者が集まり、色々な研究分野に携わっている方々が発表を見に来てくださり、有意義なディスカッションを行うことが出来たと考えております。発表では時々専門用語が聞き手に伝わらないこともあったため、なるべく簡単で本質的な説明を心掛けました。

私は、「Analytical Chemistry」分野の中でも特殊な領域を研究しているため、他の発表は自分の専門から遠いものの方が多かったですが、ポスター発表では発表者との距離が近く分からないことはその都度質問をすることで疑問を解消できました。一部の話者の英語は聞き取りにくく、次回までには論文読解力以外の英語力も高めておく必要があることを痛感しました。同じ時間帯にポスター発表をしていた方々の発表を見に行けなかったことは唯一残念でしたが、世界的に有名な先生方や、世界で最先端の研究に触れられることができ、非常に貴重な経験になったと考えております。



写真 1 メインの学会会場



写真 2 ポスター発表会場



写真 3 発表の様子